

第45期 報告書

2011年6月1日から2012年5月31日まで

The 45th Business Report

 日本プロセス株式会社
JAPAN PROCESS DEVELOPMENT CO.,LTD.



株主の皆さまにおかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社はこの度、第45期(2012年5月期)を終了いたしました。ここに、当期の業績と今後の取り組みについてご報告申し上げます。



当期(2012年5月期)の業績について
教えてください。



わが国の経済は、急速な円高の進行やタイの洪水被害による生産活動の低下、欧州債務危機による海外経済の減速などにより、依然として厳しい状況です。情報サービス産業においても、企業のIT投資に対する慎重な姿勢は継続しており、ソフトウェアへの投資はだいたい横ばいの状況が続いています。

こうした中、当社は顧客の動きに合わせて体制と部門別計画を見直し、全体計画の達成を図ってまいりました。その結果、売上高は46億47百万円で前年を4.8%下回りましたが、営業利益は2億49百万円で前年より6.7%上回りました。

各セグメントの状況についてお話しします。

制御システムでは、製品価格低下の影響はありますが、火力発電所制御装置のミドルウェア開発や環境対応システムの開発などは堅調に推移しました。また、自動車の制御システム開発は自動車業界の復調により、新たな受託をするなど順調に推移しました。

交通システムでは、在来線の運行管理システム開発はほぼ横ばいで推移しましたが、新幹線の運行管理システム開発では開始時期が次期に延期となるものがありました。また一部開発の不具合対応に予定以上の工数がかかり受注活動が不足したことなどにより売上高は、前年より減少しました。

特定情報システムでは、衛星画像の地上システムや画像解析などのシステム開発は受注を大きく減らしましたが、危機管理分野で大型システムのリプレイス案件を受注しました。しかし、プロジェクトの大型化に伴い検収が次期になるなど、当期においては仕掛が増え売上は抑えられる傾向となりました。

代表取締役社長
大部 仁

組込システムでは、当初スマートフォン向けの組込システム開発への移行が予想以上に遅れ、当期の受注は大きく減少しましたが、現在はAndroid端末の通信機能のカスタマイズなどで新たな部門との取引を開始するなど受注は回復に向かっております。

産業・公共システムでは、鉄道事業者向け設計支援業務は横ばいでしたが、自動改札の改造案件や非接触ICカード、道路ETCのシステム開発を受注するなど順調に推移しました。また、コンテンツ管理製品の開発や医薬業界向けサービスの開発などは横ばいで推移しました。

ITサービスでは、検証業務はこれまで内製化を進めていた顧客からの発注が戻り始め緩やかに回復しました。構築業務は顧客ニーズに沿った構築支援業務に軸足を移したことにより引き合いが増加し高い稼働率となりました。保守・運用では過去に取引のあった顧客から継続的な受注もあり、順調に推移しました。



第3次中期経営計画について お聞かせください。



近年、パソコンだけでなく、モバイル端末からのインターネット利用が急速に広まっており、クラウドによるサービス提供も普及しはじめております。今後はあらゆるものが相互接続されたスマートな社会になると思います。これに伴い日本メーカーの強みも、今までのような携帯やデジタル家電を中心としたコンシューマ製品から、センサーや通信機能が内蔵されたスマートな組込部品分野や半導体分野に移行するものと予想しています。

こうした背景のもと、当社は、あらゆるものが相互接続されたスマートな社会を視野に、「社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。」を第3次中期経営計画のビジョンといたしました。これは、当社は、長年にわたり社会インフラ分野におけるシステム開発を強みとしており、今後の社会を支えることになるであろうセンサーネットワークなどでも、当社の制御/組込系の技術が発揮できると考えているからです。

また、このビジョンを実現するために、3つの基本方針を策定いたしました。

それぞれの基本方針についてお話しします。

(1) T-SESの継続

当社は、これまでもソフトウェアのエンジニアリングの全ての面でお客様から仕事を請け負えるようになることを目指して、T-SES(トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス)を進めてまいりました。最近では、顧客より肥大化するソフトウェア開発に関して、一括して当社に仕事を任せたいというお話をいただくようになり、T-SESへの取組に手応えを感じております。新しい中期経営計画でも引き続きT-SESを継続、発展させて、機能の拡大、フェーズの拡大、業務の拡大に加え、それらを支える開発スタイルを確立することで、さらなる付加価値の向上を図っていきます。

(2) 新たな注力分野の発掘

先ほどもお話ししましたが、当社は社会インフラ分野のシステム開発を強みとしています。この強みをベースとし、制御/組込系の技術を融合しながら新たな注力分野を発掘していきます。

(3) 顧客とともにグローバル化を推進

社会インフラの国内設備投資は飽和状態であり、顧客はグローバル市場、特に新興国への展開に注力しつつあります。当社は、顧客と歩調を合わせグローバル市場を目指していきます。顧客がグローバル市場で高い競争力を発揮できるよう、これまでのノウハウや技術を活用し、顧客に対し標準化、低コスト化の提案を強化し、グローバル化に対応できる技術者を育成していきます。

業績目標

	売上高	営業利益
第46期	51億円	3.1億円
第47期	55億円	3.5億円
第48期	60億円	4.0億円

第3次中期経営計画の概要

第3次中期経営計画ビジョン

社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

基本方針

- 1 T-SESの継続
- 2 新たな注力分野の発掘
- 3 顧客とともにグローバル化を推進

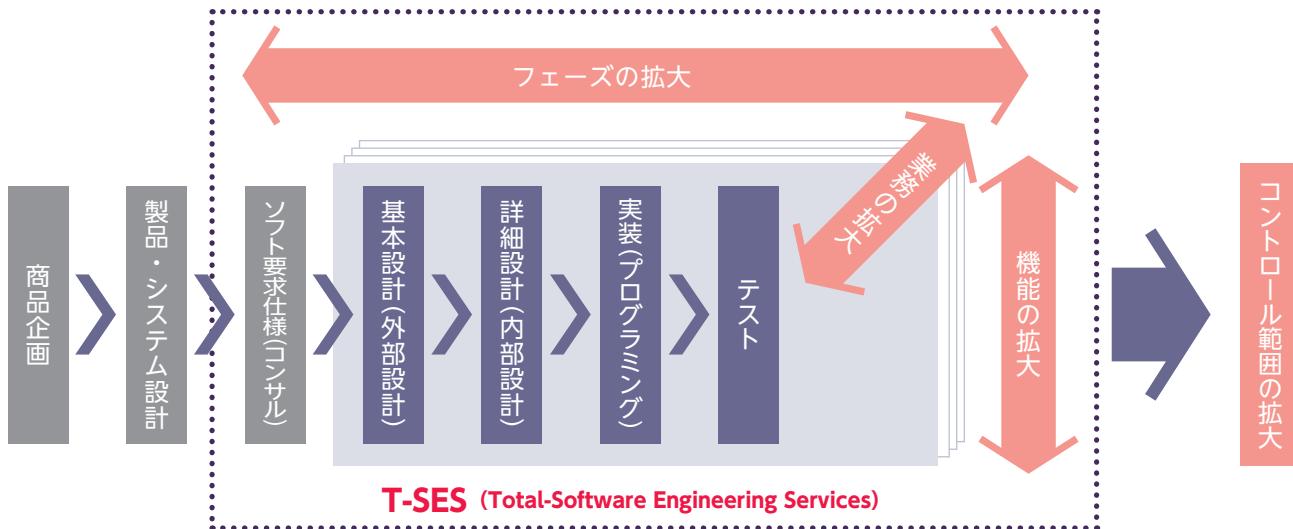
業績目標

2015年5月期

売上高	営業利益	営業利益率
60 億円	4.0 億円	6.7 %

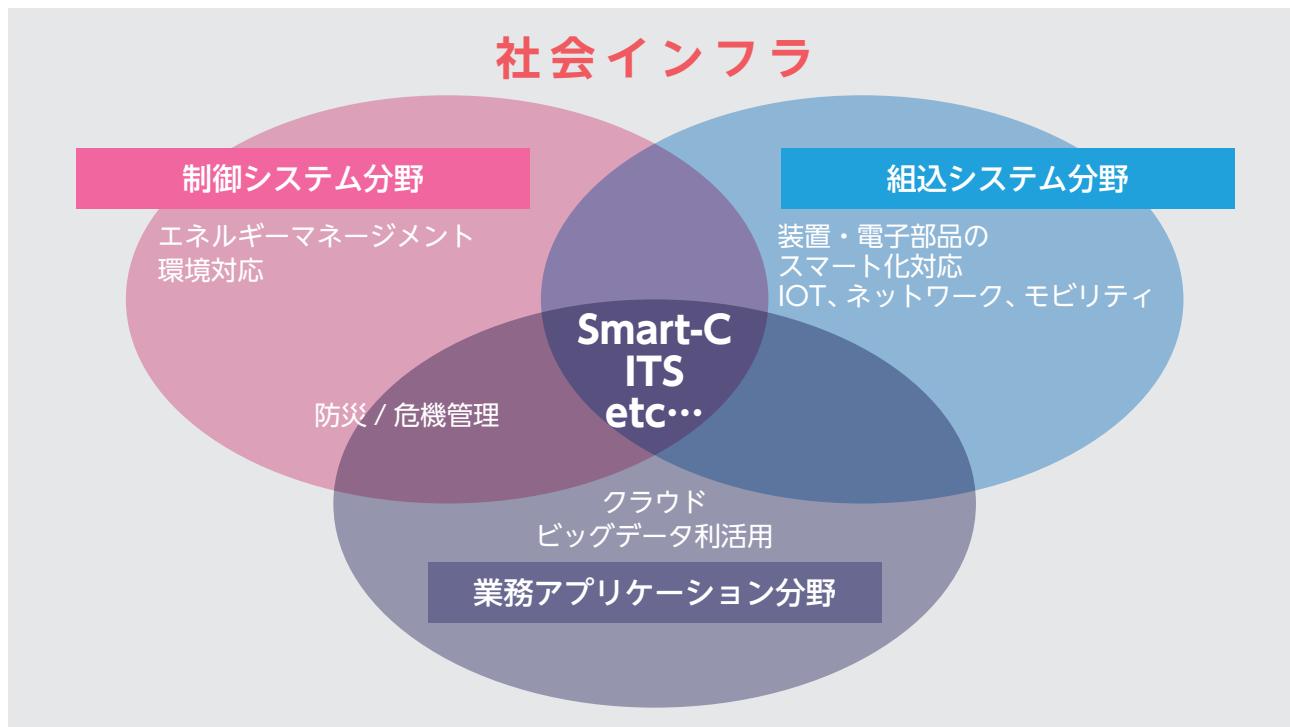
1 T-SES(トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス)の継続

機能・フェーズ・業務・コントロール範囲を拡大して、当社の付加価値を高める。



2 ▶ 新たな注力分野の発掘

当社が強みとする分野で、制御/組込系の技術を融合しながら、新たな分野を発掘する。



※Smart-Cとは、スマートコミュニティ、スマートシティ、スマートタウンなどの総称（当社の造語）。

3 ▶ 顧客とともにグローバル化を推進

顧客と歩調を合わせグローバル市場を目指す。

グローバル市場で顧客が高い競争力を発揮できるよう、これまでのノウハウや技術を活用し、顧客に提案する。

- ・標準化(パッケージ化、共通化、国際標準化)
- ・低コスト化(オフショアや先行的な技術習得)



当社の強みと今後の注力分野についてもう少し教えてください。



それでは、当社の強みをセグメント別にお話します。

制御システムでは、エネルギー関連として発電所の監視/制御システムの開発を行っています。また、自動車関連では、電気自動車(EV:Electric Vehicle)や、プラグインハイブリッド(PHV:Plug-in Hybrid Vehicle)、またそれらに必要となる蓄電池の制御システムの開発を行っています。

交通システムでは、全国の新幹線や在来線の運行管理システムや東京圏の輸送管理システム、高速道路施設管理システムなどの開発を行っています。

特定情報システムでは、防災システム、地理情報システム(GIS:Geographic Information System)、人工衛星から送られてきた画像データの処理、リモートセンシング画像処理技術が強みです。

組込システムでは、ハードディスクの代替として最近需要が高まっているSSD (Solid State Drive)やモバイル端末のソフトウェア開発を行っています。また、遠距離・近距離無線通信の技術などが強みです。

産業・公共システムでは、駅務機器のソフトウェア開発や、基盤系技術やweb技術を用いた業務システムの開発を行っています。

ITサービスでは、システム構築に関する技術、製品検証に関する技術が強みです。

次に、新たな注力分野についてのキーワードをお話します。

制御システム分野では、震災でさらに重要性が高まったエネルギーマネジメントや、CO₂削減などの環境対応が挙げられます。組込システム分野では、装置や部品のスマート化、IOT(Internet of Things)、モビリティがキーワードです。業務アプリケーション分野では、クラウドやビッグデータの利活用がキーワードです。

こうしたキーワードに、当社の制御/組込系の技術や業務アプリケーションのノウハウを融合させることが、新たな注力分野を発掘するために重要であると考えています。

また、最近「スマートシティ」「スマートコミュニティ」などの言葉を耳にされると思いますが、これらは、制御システム分野、組込システム分野、業務アプリケーション分野の3つの分野が重なったところであり、当社の技術が発揮できる分野であると考えています。当社では、この分野を「Smart-C」と名付けて、ITS(高度道路交通システム)とともに新たな注力分野の一つとしています。

当社の強み

◆ 制御システム	発電所監視/制御、EV/PHV、電池、車載機器
◆ 交通システム	鉄道運行管理、高速道路施設管理
◆ 特定情報システム	防災、リモセン画像処理
◆ 組込システム	ストレージデバイス、モバイル
◆ 産業・公共システム	公共サービス、駅務機器
◆ ITサービス	システム構築、検証、保守/運用



最後に、株主の皆さまへメッセージをお願いします。

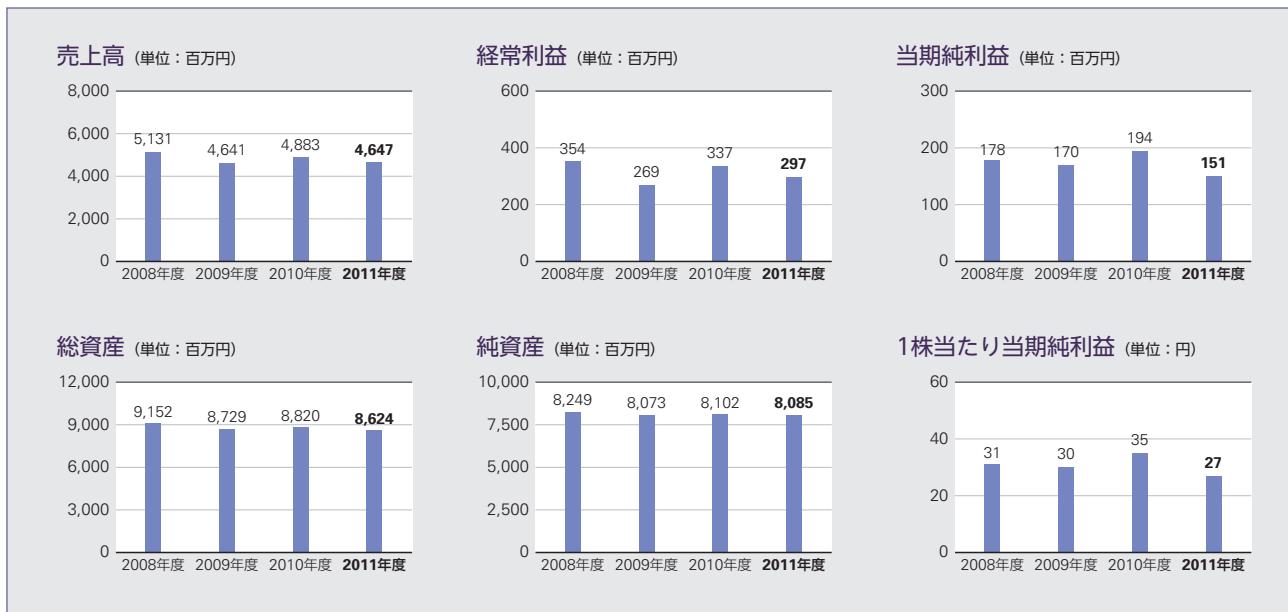


これまでお話しましたとおり、当社は新たな中期経営計画を策定し、難しい経済状況が続く中、さらなる発展を目指して、社員一丸となって進んでいく所存であります。

当社では、株主に対する利益還元を経営の重要指針として位置付けており、安定的な配当の継続と配当性向50%以上の配当を基本方針としております。当期につきましても、1株当たり30円(中間配当15円、期末配当15円)の配当を実施しました。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Financial Highlights 連結財務ハイライト



Point

売上高は、ITサービスの構築業務がクラウド化の進展により大幅に伸長し、制御システムも自動車業界の回復などにより増加しましたが、組込システムは急速な市場環境の変化に対応できず大幅に減少し、前年を下回りました。

Point

好調な分野に要員をシフトするなどで効率化を図るとともに内製化を進めたことなどにより営業利益は前年を上回りましたが、前年の大口の保険解約に伴う収益がなくなったため、経常利益は前年を下回りました。

今後の見通し(連結)

	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり配当金(円) 中間 / 期末
次期業績予想	5,100	350	202	15 / 15
当期実績(2012年5月期)	4,647	297	151	15 / 15

(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

私たちの仕事は、「製品」や「システム」を創ることではありません。

ソフトウェアエンジニアリング技術を通し、
それらの製品やシステムを「より安全に、より使いやすくすること」が
私たちの仕事であり、誇りです。



衛星画像の処理技術で
地球環境と社会の安全を
守っています。



エンジニアのモノづくりを
支えるさまざまなサービスを
提供しています。

情報端末などの難易度が高い
ミドルウェア層のソフトウェア
開発が得意です。



日本や海外の鉄道運行の
「安全、定刻」を実現しています。



快適な暮らしや
環境に優しいシステムを
提供します。



電力の安定供給と
自動車の安全で快適な
走りを実現しています。

当社は創業以来、高度な品質と信頼性を要求される制御/組込システム開発を主力事業とし、「品質第一」に実績を積んでまいりました。

当社が長年にわたり培ったソフトウェアエンジニアリング技術を生かし、システム開発に留まらず、構築サービスや検証サービスにも事業分野を広げ、お客様に最適なベネフィットが提供できる「トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス」を目指しています。



連結貸借対照表

●資産の部

(単位：千円)

科目	当期末	前期末
	2012年5月31日現在	2011年5月31日現在
流動資産	7,090,538	7,571,020
固定資産	1,533,753	1,249,300
有形固定資産	237,691	254,941
無形固定資産	61,487	91,594
投資その他の資産	1,234,574	902,763
資産合計	8,624,292	8,820,320

●負債の部

(単位：千円)

科目	当期末	前期末
	2012年5月31日現在	2011年5月31日現在
流動負債	483,094	661,616
固定負債	55,350	56,054
負債合計	538,444	717,670

●純資産の部

(単位：千円)

科目	当期末	前期末
	2012年5月31日現在	2011年5月31日現在
株主資本	8,086,590	8,101,287
資本金	1,487,409	1,487,409
資本剰余金	2,325,847	2,325,847
利益剰余金	4,448,581	4,463,278
自己株式	△ 175,248	△ 175,248
その他の包括利益累計額	△ 742	1,362
その他有価証券評価差額金	△ 742	1,362
純資産合計	8,085,847	8,102,649
負債純資産合計	8,624,292	8,820,320

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	2011年6月1日から 2012年5月31日まで	2010年6月1日から 2011年5月31日まで
売上高	4,647,310	4,883,258
売上原価	3,655,807	3,868,943
売上総利益	991,503	1,014,314
販売費及び一般管理費	742,441	780,982
営業利益	249,062	233,332
営業外収益	51,158	106,600
営業外費用	2,690	2,159
経常利益	297,529	337,773
特別利益	10,000	46,551
特別損失	576	19,326
税金等調整前当期純利益	306,953	364,997
法人税、住民税及び事業税	101,064	162,125
法人税等調整額	54,233	8,506
少数株主損益調整前当期純利益	151,655	194,366
当期純利益	151,655	194,366

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	2011年6月1日から 2012年5月31日まで	2010年6月1日から 2011年5月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 259,690	372,066
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 757,538	288,231
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 166,226	△ 166,324
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,183,455	493,972
現金及び現金同等物の期首残高	2,004,953	1,510,981
現金及び現金同等物の期末残高	821,498	2,004,953

会社概要 (2012年5月31日現在)

会社名	日本プロセス株式会社 (JAPAN PROCESS DEVELOPMENT CO.,LTD.) 略称 JPD
本店	〒105-6126 東京都港区浜松町二丁目4番1号 世界貿易センタービル26F TEL 03-5408-3351 FAX 03-5408-3289 URL http://www.jpdc.co.jp/
設立	昭和42年(1967年)6月
事業内容	システム・インテグレーション及びソフトウェア開発
資本金	14億8,740万円
従業員(単体)	543名
取引銀行	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

株式の状況 (2012年5月31日現在)

発行可能株式総数	22,980,000 株
発行済株式の総数	5,745,184 株
株主数	586 名
大株主	

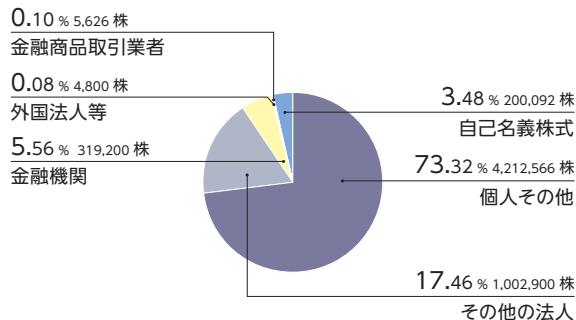
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
SBI Value Up Fund 1号投資事業有限責任組合	933,500	16.83
大部 満里子	624,470	11.26
大部 仁	549,823	9.92
大部 力	545,094	9.83
日本プロセス社員持株会	404,700	7.30
吉川 韶彦	377,011	6.80
小泉 修	365,011	6.58
第一生命保険株式会社	223,000	4.02
萩野 正彦	221,824	4.00
白川 一幸	177,000	3.19

(注) 持株比率は自己株式(200,092株)を控除して計算しております。

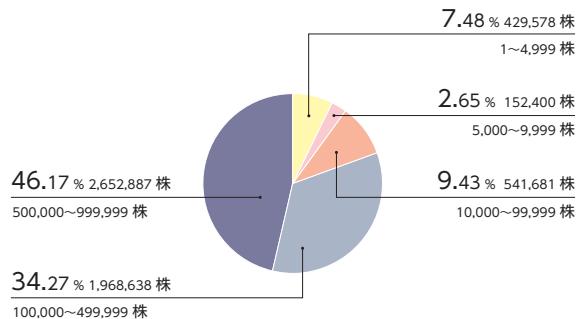
役員 (2012年8月24日現在)

代表取締役社長	大部 仁
代表取締役副社長	上石 芳昭
取締役	多田 俊郎
取締役	久保 裕
取締役(社外)	諸星 信也
取締役(社外)	千葉 拓
常勤監査役	岡竹 芳彦
監査役(社外)	川上 弘
監査役(社外)	椎名 健二

所有者別株式分布状況 (2012年5月31日現在)



所有株数別株式分布状況 (2012年5月31日現在)



株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月開催
基準日	定時株主総会 毎年 5月31日 期末配当 毎年 5月31日 中間配当 毎年 11月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 (郵便物送付先)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)	0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
同取次所	三井住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
公告方法	当社のホームページに掲載 http://www.jpd.co.jp/koukoku.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
貸借対照表及び 損益計算書の掲載URL	http://www.jpd.co.jp/ir/
上場金融商品取引所	株式会社大阪証券取引所 JASDAQ市場

ホームページのご案内

<http://www.jpd.co.jp/>

トップページ



決算短信、有価証券報告書、株主通信、説明会資料、株主総会資料をご覧いただけます。

IR情報



株主の皆さまの声を聞かせてください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 9651

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する[e-株主リサーチ]サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900 (平日10:00~17:30) [e-株主リサーチ事務局] MAIL: info@e-kabunushi.com



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

